

令和二年度 埼玉県立川口青陵高等学校 入学式 校長式辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。川口青陵高等学校を代表して、皆さんの入学を心より歓迎し、お祝いの言葉を贈りたいと思います。

また、保護者の皆様には、本日を迎えるまでの御苦労に対して、敬意を表するとともに、お子様の御入学を心よりお慶び申し上げます。教育は、学校、家庭、地域が別々でできるものではありません。学校と家庭がしっかりと手を取り合い、地域とともに子ども達を育てていく必要があります。どうぞ、本校の教育方針、教育活動に御理解をいただき、御協力と御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

高校は、資格を取るために三年間を過ごすところではありません。第一に、自ら主体的に学ぶ姿勢を確立するところです。第二に、生きる意味を確認し、友情や絆を培うところです。第三に、自らの実践、自己との対話を通じて、自分自身を変革していくところです。

そのためには、幅広い知識や技能を学び、様々な体験や経験を積み重ねて行くことが重要です。急速な情報化や技術革新は人々の生活を激的に変化させています。皆さんは、この時代に生き、さらに「あらたな時代」をつくっていかねければなりません。新しい価値観や考え方を発見し、新しい未来を構想しなければなりません。自分の頭で考え、正しく判断し、適切に行動する力を身につけていくことが必要となってきます。このことは、まさに、本校の学風である自律・協調・創造の力であります。昨年のラグビーワールドカップでは、「ワン・チーム」という素晴らしいレガシーを残してくれました。来年度に開催されるオリンピック・パラリンピックでは、限界に挑戦する力や各国の文化の相互理解など、日本人の心に様々なものを残してくれると思います。

私たちは、人生や仕事も、一生懸命にやっているつもりでも、いつの間にか惰性に陥ってしまいがちです。惰性を断ち切る一番の方法は、変化を求め続けることです。変化を求め、次々と新しい目標を見いだして、その目標に向かって誠実に努力を続けていくと、ある時、他の人が及びもつかない領域に自分が入っていることに気づくことがあります。高校生活が素晴らしいものかどうかは、終えてみなければ分かりません。しかし、一日一日素晴らしい生活を積み重ねて行くことはできます。誰もが簡単に歩めるような安易な高校生活でなく、人がなかなか歩まないような高校生活を送って欲しいと思います。

生きていく上では、嫌いなものや係わりたくないことなどに向き合わなければなりません。このようなことに対応する術は、自分の心の持ち方であると考えます。例えば、先生からの指導の際、『長いなあ』と考えて受けているより、自分が気づいてないところを気づかせ、自分を人として高めていただいていると考え、感謝しながら受ける方が良いということです。これは、故人の方の言葉ですが、『時間の使い方は、いのちの使い方、この世に「雑用」という用はない。用を雑にした時に、雑用が生まれる』と述べています。学校生活でも人生でも、時間の使い方が大切であると考えます。時間の使い方は、自分の心の決め方次第で変わってきます。

これらのことを、心のどこかに留め置きながら、充実した高校生活を送ってください。三年間で、新入生の皆さんが、飛躍的に成長することを期待して、式辞といたします。

令和二年四月八日

埼玉県立川口青陵高等学校長

梅澤 秀幸